

**● 国際交流フェスティバル (2023.11.4・5)**

今年もまどかフェスティバルが開催され、汗ばむほどの陽気の中多くの来場者で賑わいました。協会も「国際交流フェスティバル」として参加し、ステージパフォーマンスや屋台での展示・物販を行ったほか、英語・日本語スピーチコンテストとキーワードラリーに協力しました。筑紫中央高等学校の生徒と先生もボランティアとして参加しました。

**\*\* 屋台 \*\*****【カンボジアについてのパネル展示・民芸品などの販売 (11.4)】**

安部昌明さんのご協力により、カンボジアの文化・世界遺産やポーサット州での小学校建設プロジェクト等の紹介と、アクセサリー・ココナツジュースなどの民芸品・食品の販売を行いました。民芸品の売り上げからポーサット州の小学校に絵本が贈られます。

**【OISCA 西日本研修センターによる農産物販売 (11.5)】**

昨年に続いて海外からの研修生が作った無農薬の野菜・米などを販売し、人気を集めました。

**\*\* ステージ \*\***

協会と縁の深い池田スロスさん(カンボジア出身)のご協力により、パフォーマーの皆さんによるカンボジアの歌と踊り、伝統楽器の演奏を披露しました。遺跡などの写真を飾る場所はステージ前としていましたが、パフォーマーの方が「(遺跡の)神像の写真を私達より低いところには置けない」と壇上に飾られる一幕があり、文化を感じさせられました。カンボジアの歌の合間には「北国の春」も歌われ、通りすがりの人々を振り返らせていました。



日本・カンボジア



外交樹立 70 周年

日本とカンボジアの交流の歴史は古く、江戸時代初期にはすでに徳川家康とカンボジア王との間で書簡が交わされていたそうです。豊臣秀吉が始めた朱印船貿易を家康はさらに推し進め、カンボジアをはじめ東南アジアの国々を日本の貿易船が訪れるようになり、日本人街もできたといわれています。1953年に正式に国交を結び、2023年には70周年を迎えました。両国でさまざまな記念行事が行われる中、協会も長年の友好を祝うことができました。

## ●バスハイク (2023.10.15)

外国人と一緒に日本の文化や歴史を学べる場所を訪ね、学習しながら交流するというこのバスハイクは、協会員だけではなく一般の方からも多く参加希望が寄せられる人気事業ですが、コロナ禍により2019年の「唐戸・門司」を最後に休止していました。今年度3年ぶりに再開し、23名（外国人4名、協会員12名、一般参加者7名）で唐津を訪問しました。少人数グループに分かれていたもののグループを超えて話がはずんだり、外国人参加者が日本語で冗談を言って笑わせたりして盛り上がりました。唐津を代表する祭り「唐津くんち」までもう間もない時期だったため、曳山の準備の様子も見ることができました。



### 【訪問先】

唐津城  
曳山展示場（唐津くんち）  
唐津市ふるさと館  
マリンセンターおさかな村



### \*\*\*参加者の感想より\*\*\*

・国際交流を初めて経験できて思い出になった ・普段接する機会のない海外の方と話ができて楽しかった ・スタッフの皆さんが親切だった ・お互いの名前がわかる名札がほしかった ・外国の人と もっと交流したかった ・またぜひ参加したい

### 唐津くんち

奈良時代に建てられた唐津神社の秋の大祭で、毎年11月2日～4日の3日間行われ、豪華絢爛な14の曳山が市内を巡ります。期間中の人出は50万人といわれ、国の重要文化財に指定されているほか、ユネスコの無形文化遺産にも登録されています。祭りの起源は江戸時代の寛文年間（1661-1673）に遡るとされ、1819年に氏子町の刀町が赤獅子を建造して奉納したことから、曳山が始まったといわれています。

## ●英語道場(2023.10.15)

9月12日から8回シリーズで始まったリビングストーン先生の英語道場が11月14日に終了し、参加者の皆さんに終了証が授与されました。日常生活でありそうな場面での会話をテキストを使って学習したほか、カラオケで英語の歌を歌ったりゲームをしたりして楽しく学びました。参加者アンケートでは、「わかりやすかった」「(道場を)続けたい」といった回答もありました。



## ●ことばの交流ひろば

4月から始まった活動は今年度も残すところ3か月となりました。日本語教室の後、日本の文化や受講生それぞれの国の文化を協会員（スタッフ）と受講生が共に学ぶ交流の時間は、年々充実しつつあります。また、例年取り上げている「救助訓練・救命訓練」やクリスマス控えての「松ぼっくりのクリスマスツリー作り」は、受講生やスタッフにも好評です。

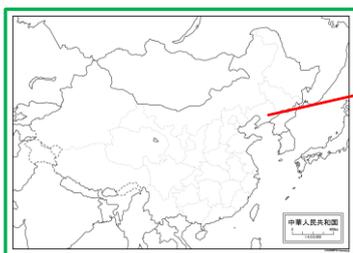


### 【李さんのお国紹介（10.21）】

日本語教室受講生の李（リー）さん（九州大学大学院留学生）が、お国の中国 遼寧（リャオニン）省 本溪（ベンシー）市」の名所や伝統行事、郷土料理などについて紹介してくれました。



中国には人口の9割以上を占める漢民族の他に55の少数民族がいて、李さんは満族だそうです。本溪市には満族自治県があり、他にも多くの少数民族が住んでいます。満族といえば清朝が思い浮かびますが、遼寧省は清朝の初代皇帝ヌルハチの故郷です。温泉も多く、ヌルハチの犬が温泉に入ったという伝説もあるそうです。本溪という名の由来は本溪湖で、この湖は形が角で作った杯に似ていることから杯犀（ベイシー）湖と呼ばれていたのが、本溪（ベンシー）に変化したといわれています。湖の奥には本溪水洞と呼ばれる鍾乳洞があり、観光地等級5A（最上級）に指定されています。その他、三合院という伝統的な造りの住宅や、凍梨（凍らせた梨）・蘇叶糕（小豆餡入りの米粉団子を紫蘇の葉で巻いて蒸したもの）などの郷土料理、日本ではヤンコ踊りとして知られる伝統舞踊などについても語られ、楽しい学びの時間となりました。



遼寧省  
本溪市

## \*\*\*\*\* 第5回 市民総ぐるみ防災訓練 (2023.11.25) \*\*\*\*\*

大野城市内全域で同じ日・同じ時刻にスタートする、全世代対象の総合的な避難訓練で、今年は17000人が参加しました。協会は市と「災害時における外国人支援への協力に関する協定」を結んでおり、中央コミュニティセンターで関係職員の皆さんとともに、外国人避難支援訓練を行いました。震度6強の地震が起き、

避難所であるセンターに日本語を話せない外国人が避難してきたという設定で、主に受付票への記入を通訳ボランティアが援助しました。その後職員の方から説明を受けながら避難設備等を見学し、外国人参加者から「家族向けテントは何人用なのか」「市民でなくても避難できるのか」など、活発に質問が出ました。特に「水道が止まったらどうなるのか」「できれば受付の時点で飲み水が欲しい」という質問や意見に、水の確保についての関心の高さがうかがわれました。





# INFORMATION CORNER

## Onojo-city International Exchange Association

### 令和5年度大野城市表彰式

大野城市では「大野城市表彰条例」に基づき、様々な分野でまちづくりに貢献した人の表彰があります。今年度、長年にわたり協会事務局長として尽力されました早川和也氏が大野城市から社会功労賞を授与されました。



### 第10回大野城市

### 英語・日本語スピーチコンテスト

まどかフェスティバル（11月4・5日）の2日目、11月5日に今年度で10回目となるコンテストが行われました。今回、国際交流協会会員はフェスティバル物品販売、ステージサポートに加え、スピーチコンテスト後援という立場からコンテスト会場で受付等の手伝いをしました。

### ミニ万博 in 福岡



12月9日・10日、九州国立博物館において大野城市国際交流協会会員で筑陽高等学校生徒の前田君が、福岡県青少年育成県民会議主催のイベント「ミニ万博 in 福岡」を企画開催しました。2日間で900名を超える来場者に楽しんでいただきました。



大野城市長 井本様にウガンダの楽器を体験していただきました。



自由の女神！

## Other organization News & Event



福岡県留学生会（FOSA）と共同企画で今年度中に「Field-Trip」挙行を計画中です。（予定:2024.1.21）  
**乞う御期待！**

### 台湾在日福岡留學生會

台湾在日福岡留學生會は九州及び山口地域の台湾留学生コミュニティで日本人との交流を積極的に行っています。12月2日(土)懇親会の席で新旧会長のご挨拶がありました。今後の当協会との交流も楽しみです。

どうぞ よろしく！！



台湾留学生会 劉会長

### 編集後記

2023年はイベントが幾つも復活して、懐かしい人たちとの久々の交流、そして新しい出会いがありました。2024年も、楽しい交流や学びがたくさんありますように。皆さんの元気な笑顔をビギン新聞でお届けしたいと思います。（辻）



大野城市国際交流協会事務局： 市役所新館3階 コミュニティ文化課内

TEL:090-2067-3173 Fax:092-573-7791 email: [begin@city.onojo.fukuoka.jp](mailto:begin@city.onojo.fukuoka.jp)